第３学年４組　　音楽科学習指導案

指導者　木村　仁美

１　**題材名**　　おはやしをつくろう

教材名　　表現（音楽づくり）「おはやしづくり」

鑑賞　　「佐原囃子」

２　**題材について**

≪学習指導要領とのかかわり≫

Ａ　表現　（３）ア　いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。

イ　音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

Ｂ　鑑賞　（１）イ　音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

〔共通事項〕（１）ア　(ｱ)　音色　リズム　速度　旋律　強弱　音の重なり　拍の流れ　フレーズ

(ｲ)　反復　問いと答え　変化

（１）題材観

本題材では、音の組合せやリズム、重なりなどの音楽を特徴付けている要素と、反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みに着目し、工夫しながらグループでお囃子をつくることをねらいとする。この活動にあたって、児童が自分の考えや願い、「このような音楽にしよう」という意図をもち、その実現に向けて試行錯誤しながら創意工夫する活動を楽しむことができるようにしたい。このことにより、児童自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音楽をつくる喜びを味わわせ、表現力を育てていきたい。

（２）児童の実態（男子 18 名　女子 13 名　計 31 名）

６月に学習した「おはやしをつくろう」において、ラドレの３音を使って旋律づくりの活動を行ったところ、音をリズムに当てはめることにより、全員が自分のお囃子の旋律をつくることができた。そして、一人２小節のお囃子を４人グループでつなげて演奏したり、太鼓のリズムを入れたりして、お囃子の雰囲気を味わってきた。拍の流れを感じ取れずに止まってしまう児童も数名いたが、最後には、音楽を途切れさせることなく、クラスのお囃子をつなげるために意欲的に取り組んでいた。緊張感をもちながらも、全員が活躍できること、自分のつくった旋律が、曲の一部になっているということに喜びを感じていた。このように、リズムや速度、拍の流れなどの音楽を特徴付ける要素に気を付けて旋律づくりをしてきたが、反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みを使った音楽づくりの経験はまだないため、本題材で取り組ませ、楽曲の構造に着目した学び方を身に付けさせたい。

また、旋律をつくる上でリコーダーの技能は欠かせないが、運指やタンギングなど、個人指導が必要な児童もいる。

その他、全体的に控えめな児童が多く、自分の考えや思いをもっていても表現する発言等が少ないため、この学習によって、自分の音や音楽を伝え合う活動を充実させ、自信をもって表現する児童を育てたいと考える。

（３）指導観

本題材では、６月に学習した「おはやしをつくろう」をさらに発展させて、ミソラドレの５つの音を使い、音楽の仕組みを生かした旋律づくりに取り組ませたい。

その際には、前回使ったワークシートを活用する。このワークシートは、音符を記譜するのではなく、階名の片仮名を選んで○に当てはめるだけで旋律がつくれるように工夫したものである。

学習過程としては、まず、一人一人のつくった旋律を繰り返したり、変化させたり、問いと答えのように組合せたりしながらグループの旋律をつくる。そして、そのグループの旋律にふさわしい打楽器を選んだり、リズムを考えたりする。さらに、自分たちの思いや意図をもって全体の構成を考えながら、つくった旋律とリズムを組合せることで、お囃子をつくり、グループの音楽を完成させる。

構成を考える際には、反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みが視覚的にとらえやすいように、構造図とつくった旋律ごとに色分けした付箋を利用する。そして、他のグループと聴き合う時間をとることで、自分の思いや意図を表現したり、高め合ったりできる環境をつくる。

この活動を通して、音楽と主体的・創造的にかかわり、友達とコミュニケーションを図りながら、「自分たちのお囃子」をつくる楽しさや達成感、共に一つのお囃子をつくる喜びを味わわせたい。

３　題材の目標

一人一人がつくった旋律をグループの音楽に構成しながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもってお囃子をつくる。

４　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①ミソラドレの５つの音の響きやお囃子の旋律をつくることに興味・関心をもち、即興的な表現に進んで取り組もうとしている。 ②反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに関心をもち、思いや意図をもってお囃子をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、旋律とリズムをどのように組合せていくかをいろいろと試して、どのようなお囃子をつくるかについて、自分の考えや願い、意図をもっている。	①反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、お囃子をつくっている。	①「佐原囃子」に使われている様々な音色、リズム、速度、旋律、強弱、　音の重なり、拍の流れやフレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。

５　研究の視点について

【視点１】　表現と鑑賞を関連させた題材構成

○「佐原囃子」の鑑賞をお囃子づくりに生かす

「佐原囃子」に使われているリズムや和楽器を参考にし、リズムパターンなどを模倣することから、自分たちのお囃子づくりのヒントにするようにしていきたい。なお、児童が和楽器固有の豊かな響きに触れられるように、和太鼓、締太鼓、鉦、竹太鼓等、いろいろな楽器を用意しておく。

【視点２】　思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする力の育成

○ワークシート及び構造図と付箋の活用

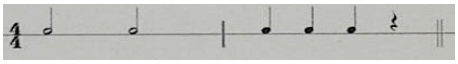
つまずきの予想される児童も楽しんで活動できるように、音符を記譜するのではなく、階名の片仮名を選んで○に当てはめるだけで旋律がつくれるようにする。

反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、全体の構成を考えて音楽づくりをするために、構造図とつくった旋律ごとに色分けした付箋を使用する。このことにより、全体の構成が視覚的にとらえやすくなり、付箋を自由に入れ替えて、いろいろ試しながらお囃子づくりを進めていくことができる。

○聴き合う場の設定と、「工夫のポイント」の明確化

他のグループと聴き合う場を設定することにより、自分の思いや意図を表現したり、高め合ったりできる環境をつくる。その場では、どんなところを工夫するとよいのかわかりやすいように、「工夫のポイント」をまとめて掲示しておき、お囃子をつくるときと、他のグループのお囃子を聴くときの観点を明確にする。

６　題材の指導計画（５時間計画）

次	時	○学習内容　・主な学習活動	評価規準
第一次	ねらい　音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに気を付けながら「佐原囃子」を聴く。		
	第1時	○「佐原囃子」の構造に気を付けて聴く。 ・「佐原囃子」を聴いて、フレーズやリズムが繰り返されていること、速度や音色に変化があることなどに気付く。	「佐原囃子」に使われている様々な音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れやフレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。 （鑑賞の能力①）
第二次	ねらい　グループで音楽の仕組みを生かし、お囃子をつくって表現する。		
	第2時	○一人一人がお囃子の旋律をつくる。 ・  のリズムに合わせて、ミソラドレの音を組合せ、リコーダーで試しながら２小節の旋律づくりをする。	ミソラドレの５つの音の響きやお囃子の旋律をつくることに興味・関心をもち、即興的な表現に進んで取り組もうとしている。 （音楽への関心・意欲・態度①）
	第3時	○グループでお囃子の旋律やリズムをつくる。 ・構造図に付箋を貼り、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かしながら、旋律をつなげる順番を考える。 ・自分たちのお囃子の旋律に合った太鼓、鉦などのリズムを考える。	反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに関心をもち、思いや意図をもってお囃子をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 （音楽への関心・意欲・態度②）
	第4時（本時）	○音楽の仕組みを生かして、全体の構成を考えて自分たちのお囃子をつくる。 ・つくった旋律やリズムの組合せ方や変化の仕方などを工夫して、自分たちのお囃子を試奏する。 ・リコーダー、太鼓、鉦、合いの手などを合わせて確かめる。 ○他のグループと聴き合う。 ・他のグループと聴き合って、アドバイスをし合ったり、よいところを伝え合ったりする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、旋律とリズムをどのように組合せていくかをいろいろと試して、どのようなお囃子をつくるかについて、自分の考えや願い、意図をもっている。 （音楽表現の創意工夫①）
	第5時	○グループのお囃子を発表する。 ・各グループのお囃子を発表し、それぞれのよさ、工夫を認め合う。	反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、お囃子をつくっている。 （音楽表現の技能①）

7　本時の学習　（４／５）

（１）目標

音やリズムの組合せ方、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもってグループのお囃子をつくる。

（２）展開

学習内容と学習活動	教師のかかわり　◆評価規準〈評価方法〉
1　前時の振り返りをする。 ・前時でつくったグループのお囃子の中から、一つのグループを取り上げ、工夫してあるところやよさを見付ける。	○「工夫のポイント」や、変化のつけ方などを確認する。 ○工夫がよく表れているグループの演奏を聴くことで、前時より、さらによいお囃子をつくろうとする意欲を喚起する。
2　本時のめあてを確認する。 「くふうのポイント」を生かして、おはやしをつくろう。	
3　グループのお囃子をつくる。 ・旋律をつなげる順番を考える。 ・旋律に合った太鼓、鉦などのリズムをつける。 ・合いの手を入れる。 ・リコーダー、太鼓、鉦、合いの手など、それぞれ役割を分担し、合わせる。	○付箋を貼ったりはがしたりして、構造図を活用しながら、グループのお囃子をつくるように助言する。 ○反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みについて気付いていないグループには助言してまわる。 ○音で試しながら、考えるように助言する。
4　お互いのお囃子を聴き合う。 ・他のグループと聴き合い、アドバイスをし合ったり、工夫したことや表現のよさを伝え合ったりする。	○聴く児童には、「工夫のポイント」を踏まえて、よかったことやアドバイスしたいことなどを伝えるように助言する。 ◆音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、旋律とリズムをどのように組合せていくかをいろいろと試して、どのようなお囃子をつくるかについて、自分の考えや願い、意図をもっている。　（音楽表現の創意工夫①） 〈活動観察・構造図・ワークシート・演奏聴取・発言〉
5　今後の見通しをもつ。 ・一つのグループのつくったお囃子を聴き、表現の工夫を確かめ合って、次時の見通しをもつ。	○何人かの児童に発表させ、表現の工夫を認め合うようにする。「工夫のポイント」を明確にし、助言する。 ○次回は、全部のグループがつくったお囃子の発表会を行うことを伝え、意欲をもたせる。